

平成30年度長野県長野吉田高等学校学校評価表

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育活動	生活指導	生徒の自立心と社会規範意識を高めさせる生活指導を行う。	身なりや挨拶、登下校時のマナーを含め公共の場における適切な態度を身につけさせることができたか。関連して、遅刻者、自転車事故を減らせたか。	生活はじめ週間として、遅刻指導・交通指導・頭髪指導を年4回実施。身なりは落ち着いている。交通事故に関しては、数字の上では、例年とあまり違いは無いが、大きな事故になっていないだけのこと。引き続き、指導していきたい。		○		交通マナーについての苦情がある。臨時に立ち番を実施しているが、ことあるごとに指導をしていかなければいけない。
			集団生活の中で、他者を思いやり、自ら考えて行動する態度を育てることができたか。	集会等で、折に触れて、指導している。生活アンケートを実施し、個々に対応した。気軽に相談できる雰囲気を作ることができれば。		○		中高の連絡を密にすることが大切になっている。
			金銭や自転車などの盗難防止をとおして、自己管理能力を高めることができたか。	金銭盗難は無いが、自転車盗難がある。自転車盗難防止モデル校に指定されたのを機に、啓発指導していきたい。		○		さらに自己管理の徹底を指導したい。
	進路指導	生徒が自主的に目標をもって学び、意欲的に進路実現を目指す学習・進路指導を行う。また、将来の生き方・働き方を考え、選択決定する上で必要な、基本的な能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。	進路指導係として、本校生徒全体の学力向上を目指し、生徒自身が具体的な学習目標をもつことができるような教科指導・進路指導を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会(4月)、キャリア学習(5月)、新潟0Cツアー(8月)44名 ・大学模擬授業(2学年10月) ・大学見学+事業所見学(1学年10月) ・学年集会、学年進路講演会の実施、学年通信の発行 ・進路指導室だより(1,2年向け:月刊、3年向け:適時)の発行 ・次年度類型科目選択資料「科目選択の指針」の作成 ・職員会報告による情報共有 		○		引きつづき、各取り組みの充実を図る。
			進路指導係として、夏期講習・学習合宿・補習・個別指導・小論文指導等を充実させ、生徒個々の希望や実情に応じた進路指導を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期休業中の学習合宿(参加:1年244名、2年112名、3年153名) ・3学年1学期・2学期:放課後補習の実施 ・3学年7月・8月:夏期講座(特編授業)、夏期補習(夏期休業) ・全学年:模試、講演会など小論文指導の実施 ・職員会提案「校外模試への対応」 ・特編A、特編Bの実施 ・3学年:通年の志望系統別全体指導および個別指導 		○		模擬試験の公欠に対し、自宅受験は行わないことを申し合わせた。引きつづき、各取り組みの充実を図る。また、来年度の休業長期化や、再来年度の共通テストに有効な指導計画を立案する。
			進路指導係として、生徒が自発的に家庭学習時間を増やすよう、学校全体で取り組めたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初よりスケジュール手帳を採用 ・スタディーサポートや生活記録などを通じた実態の把握 ・啓発ポスターの掲示 ・状況を踏まえた個別面談の実施 		○		学習と班活動との調和、スマートフォンとの共存が大きな課題である。また、日々の教科指導における予復習の徹底が課題である。
進路指導	進路指導係として、高大接続改革をふまえ、共通テストや探究学習への対応を進めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・高大接続改革に対する情報収集、研究会参加 ・職員研修会の実施「高大接続改革について(全体・学年)」 ・職員会提案 <ul style="list-style-type: none"> 「キャリア学習と探究学習の参加について」 「英語認定試験への対応」 「多面的総合的評価への対応」 ・英語外部検定GTECの運営 		○		高大接続改革への対応を検討してきた。これまでの検討を踏まえ、次年度以降の指導計画を立案する。他分掌や教科でも検討を進めていただきたい。		
		進路指導係として、就労体験等の機会の活用を図りながら、望ましい勤労観、職業観を育成できたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアガイダンス(1学年社会人講話9月) ・大学見学+事業所見学(1学年10月) ・本校独自の就業体験 吉田小学校8名、吉田児童センター7名、保育園幼稚園17名 長野中央病院見学12名 ・一日看護師体験28名、高校生グローバルスクール2名 		○		次年度以降も継続して実施するとともに、充実を図る。課外活動などを理由に参加できない状況を改善する。また、探究学習や活動履歴との接続を検討する。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育活動	生徒会	当事者意識をもって主体的に自治活動を行うように促し、各々が成就感を持てるよう支援する。	日常の委員会活動や文化祭などでは、それぞれの組織の長が適切なリーダーシップを発揮するよう支援し、全校生徒が主体的に参加できるような、創意ある活動をおこなうための支援ができたか。	生徒会役員生徒と顧問が密にコンタクトをとることにより、これまで以上にきめ細かな指導を行うことができた。新執行部発足後は毎週執行部会を開催し、横のつながりを強化。また、一般生徒に執行部の活動を周知し生徒会活動をより身近に感じてもらうため、広報活動を充実させた。	○			役員生徒が生徒会活動に対してやりがいを感じ、より意欲的かつ創造的な活動ができるよう、今後も顧問が積極的に介入していく必要がある。
			吉田高生として、地域との関わりと地域での立場を意識しながら、高校生活が送れるように指導できたか。	近隣地区向けの生徒会（暁峰祭）便りの発行、長野マラソンでのボランティア、地域清掃、児童養護施設への募金活動等で、地域とのつながりを意識させることができた。		○		関わる生徒が限定的なので、より多くの生徒が地域と関われるようにしたい。
			クラブ活動への積極的な加入やクラブ活動を盛んに行えるように支援できたか。	各班が盛んに新入生の勧誘を行った。すべての班の予算を一律1000円増額した。クラブには例年並みの加入数が得られ、運動班では多くの班が県大会以上に進むことができた。また文化班では複数の班が信州総文祭に出場した。	○			新たな班活動応援企画を考えていきたい。
	平和人権教育	平和人権教育を計画的に推進し、職員研修を実施する。	全校生徒を対象に、人権・平和に関する講演・朗読会または映画鑑賞を実施し、事前事後学習と関連させてHR等での学習を深めることができたか。	全校一斉平和人権学習として、10月31日(水)に映画「クロスロード」を視聴した。青年海外協力隊員が主人公であり、世界に目を向け、貧困や持続可能な開発(SDGs)などについて考えさせた。	○			グローバルな視点や社会において関心の高い話題を取り上げ、生徒の人権意識の向上を図る。
			平和人権学習の時間をHR等で計画的に確保できたか。	10月29日～11月2日の全校平和・人権教育週間に、学習用資料を配付し、HRにおいて活用してもらった。		○		各学年とも非常に多忙な時期であり、資料は適度な分量とする。
			平和人権教育に関する教職員の研修を実施し、校内での実践等を交流できたか。	10月31日(水)、寺尾文子氏を講師に招き、「さまざまな人権課題と学校～安心と信頼の形成～」をテーマに、職員研修会を開催した。	○			教員にとって切実な課題などを考え、テーマ(講師)設定する。アンケートの実施なども。
	施設整美防災	校内美化に対する意識の向上および清掃活動の徹底と防災意識の涵養に取り組む。	生徒会整美委員会が中心となり、清掃活動の励行、ゴミの分別意識の徹底等、生徒と職員が一体となって、日常的に取り組むことができたか。	生徒委員会が積極的に取り組んでくれている。課題であった暁峰祭で廃棄される段ボールの量も減らすことができ、一定の成果がみられた。しかし、収集時間外のゴミの持ち込みも有り、生徒会と協力し改善に努力したい。	○			引き続き呼びかけを続ける。生徒会とも善後策を検討したい。
			校内の施設、設備の点検・整備を行い、有効に利用できるようにしたか。	事務室及び分室の協力も有り迅速な対応ができていていると思う。		○		引き続き環境整備に努めたい。
			防災訓練の充実と、防災意識を高める取り組みができたか。	校内の防災週間を設定し、防災学習と避難経路の確認を行った。所定の避難訓練を実施した。	○			日常の防災意識の向上に努める。
図書	生徒の教養に資する資料を提供するとともに、生徒・教職員の学習・教育活動を積極的に支援する図書館運営を行う。	広報活動や読書旬間等の行事、生徒会図書委員会の活動の活性化を通じて、読書活動の充実をはかることができたか。	図書委員会「Read」、司書による「図書館だより」を発行し、情報の発信に努めた。また、季節や行事に合わせて館内をレイアウトしたり、文化祭では昨年に続き古本市を開催し、収益金の一部を生徒会で行っている募金に提供するなど積極的な活動ができた。	○			学校行事や進路状況と連動した図書の選定・提供に努める。また、引き続き生徒の興味関心を引く広報・定期的な情報発信に努める。	
		日常の学習や進路学習において、教科や係と連携を深め、資料の提供ができたか。	改めて進路参考図書の選定を行い、不足している分野は買い足し、進路別に細分化したコーナーを設け、スムーズに回答・誘導ができるよう整備した。また、保健・情報・美術の授業の場として利用していただき、保健の調べ学習の際はパスファインダーを作成し提供した。ほかに、新聞・ネット等から本や進路に関する記事の情報収集・掲示を行うことで、情報基地としてのアピールをすることができた。		○		生徒の「探究的な学び」に足る資料の充実に継続して取り組む。	
		長水地区高等学校図書館協議会をはじめとしたS L Aの活動に積極的に参加・協力できたか。	長水地区では総会・研究会2回、司書部会3回、図書委員会交流会1回に参加した。その他、北信ならびに県S L Aの総会に出席した。		○		他校との更なる交流によって、図書館活動の充実を図る。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育活動	視聴覚	視聴覚教室や視聴覚教材を整備し、ハードとソフトの両面から生徒・教職員の学習・教育活動に資する。	各教科・係などが視聴覚教室を活用できるよう機器の整備ができたか。	机や椅子の更新など、授業用の教室としての整備が進んだ。		○		予算状況により改善を進める。
			芸術鑑賞の準備・運営が計画的かつ円滑に進められたか。	自校体育館の実施のため、会場内の温度や音響の調整が難しかった。生徒並び職員のアンケートを見ると好評であった。	○		アンケート結果をふまえ、開催日時や整列方法などについてを検討していく。	
	保健	自らの健康について関心を持ち、生涯を通じて自発的に健康な生活を送ることのできる能力を身につける。	定期健康診断や健康相談活動等を通じ、自らの健康課題を把握し改善することができるよう保健管理・保健指導を行えたか。	健康相談として一番多かったは、中学校の頃と違って、こんなはずではなかったなどの自己肯定感の喪失やどうして良いか分からない行き詰まってしまった・・・等の相談が多かったが、誰にも相談できないといった、そんな生徒が目立った。予測付かない突然の相談に寄り添い、担任相談室管理職専門医にとチーム支援に繋げるように働きかけた	○			思春期の悩み多き時期であり、心身の不調を訴える生徒が増加している。個々の対応にも時間をかけて慎重に取り組む必要性も有り、保健室のほかに相談や面談に対応できる部屋や職員を確保したい。
			学校において予防すべき感染症について、最新の情報収集により感染拡大防止策の徹底がなされたか。	教務室・教頭先生と連携し、保護者に学校の様子をメール配信したり、班活動自粛を呼びかけたり、朝登校前に発熱体調不良があった場合は無理をして登校せず、医療機関を受診を奨励するなどなるべく保健室にいることが感染拡大にならないよう努力した。		○		感染症の恐れのある生徒が保護者を待つ別室が必要である。
	情報処理	新教育課程が完全実施となり、生徒および教職員の学習・教育活動を積極的に支援できる情報教育とLAN運営を実施する。	個人情報の保護も考慮し、生徒の成績情報の閲覧性の向上をはかり、学習指導や進路指導との情報共有の向上をはかることができたか。	生徒の成績情報などのデータの機密性を保持しながら、職員間で共有が適切におこなわれている。		○		パスワードの設定や、ファイル管理などの方法を詰めていく。USBメモリ等の使用を含めた重要データの取り扱いには引き続き注意喚起をおこなう。
			県教育情報ネットワークへの移行をふまえた、校内ネットワークの維持管理および移行ができたか。	既に校内ネットワークの移行は完了している。現在のネットワークの維持管理、不具合時の対応も適切におこなっている。		○		問題発生時に素早く対応したが、サーバートラブルが頻発した。サーバーメンテナンスの情報は周知が必要。
			係内の業務内容を整理し、よりスムーズな流れを構築できたか。	各学年に情報処理係を配置、業務を分担することにより、円滑に作業が進められた。トラブル発生時にも対応できた。		○		係内での情報交換をより密におこなう。
	学習指導	生徒の学習状況や指導上の問題点を把握し、各学年や関係部署と協議しながら学力向上のための研究・実践を行う。	授業アンケート等を通して、生徒の意見・要望を聞き取り、教科指導の向上・充実につなげることができたか。	第2回のアンケートで未実施の授業が複数あった。			○	1回目、2回目とも全授業でアンケートを実施するよう呼び掛けていく。
			生徒の学習実態を把握するとともに、家庭学習など学習習慣の定着を図るべく適切な方策が講じられたか。	1、2学年では、日々の学習時間を記入した手帳を提出させることで生徒の学習実態の把握に努めた。また休日にも当番制で学習室を開放し、生徒に学習環境を提供することができた。		○		引き続き各学年で学習習慣定着に向けた活動を行っていく。
	教育課程	現行教育課程下での成果と課題を総括し、新教育課程の編成に向けて研究を進める。	現行教育課程下での学習効果と課題の検討を行い、新教育課程の編成に向けて準備を進めることができたか。	2022年度からの新学習指導要領実施までのスケジュールを全体で確認し、新教育課程の編成に向けて準備を進めた。55分授業、A・B週授業、1年次途中でのコマ数の変更など、現行教育課程における諸課題を整理した。		○		平成32(2020)年度中には新教育課程が決定できるように、次年度素案を示し、各教科で検討を進めていく。
			主体的・対話的で深い学びを踏まえて、学校全体及び各教科で授業改善、授業研究・検討ができたか。	主体的・対話的で深い学びについて、各教科において授業公開や研究授業の場で研修を行った。		○		学校全体の取り組みとなるよう、学習指導委員会とも連携して、授業のあり方について研究・検討を重ねていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育活動	1 学年	<p>勉学と日々の生活において素直に、前向きに、主体的に取り組むことを通して「周囲から応援してもらえる」人になれるように指導し、高校生活の1年間を充実して送ることができるようにする。</p>	<p>「NOLTYスコラ」を一助とし、学習時間の振り返り・持ち物や提出物の把握・学校の諸活動のスケジュールの把握を働きかけ、それにより自らの力をバランスよく使い、メリハリのある毎日を送ることができるよう指導ができたか。</p>	<p>1年間を通じて毎週月曜日にスコラの提出を実施することができた。提出率は、中間報告では8割弱であったが、最終的には7割前後となった。年間を通じて、学年通信、HR等でスコラの提出を喚起し、家庭学習の時間の確保につとめた。2年次も継続する予定でスコラの活用を検討している。</p>		○		<p>スコラの活用については、クラス替えとともに抜本的な改革を検討していく必要があると思われる。</p>
			<p>元気のよい挨拶をはじめ「気持ちのよいコミュニケーション」「気持ちのよい学習環境づくり」の指導をしながら、「相手の気持ちを立てる」「ものを大切にできる」心の育成を支援することができたか。</p>	<p>元気のよい挨拶は多くの生徒が行えている。気持ちのよい学習環境については、スマホの決め事がややおろそかになりがちになっており、学年全体での確認をし、気づいたときに手段を講じている。スマホの使い方についても指導を重ねている。</p>		○		<p>引き続き情報交換を密にして、面談指導、声がけ指導を行っていく。</p>
			<p>自分の興味関心を深めることで、キャリア形成を視野に入れその実現に向けて必要な学習、および、高校生活に取り組みさせることができたか。</p>	<p>5月、9月のキャリア教育、10月の大学企業見学を行った。報告レポートからは、前向きな取り組み姿勢がにじみ出ている。後半は、進路ノートを使った進路学習もきちんと行えた。探究学習でもいろいろなことを深く調べ考えることができた。</p>		○		<p>進路学習でキャリア形成を深めるとともに、探究学習も本格化させ、世の中のことなどいろいろなことを考える力をつけることに努めさせたい。</p>
	2 学年	<p>他を思いやり尊重する心を持ち、自らの適正な判断力に基づき人生を力強く生き抜くことができる自立した学習者になることを目標に、勉学・班活動・学校行事等すべてのフィールドにおいて頑張りぬくバランスのとれた生徒たちの集団になれるように指導・育成する。</p>	<p>勉学・班活動・学校行事すべての分野において自分の持っているすべての力をバランスよく且つ精力的に用いることができるように働きかけ指導することができたか。</p>	<p>国公立大学や難関私大を目指す生徒が大半である中、一日二時間、120分以上の学習時間の確保を生徒たちに意識させる取り組みを行ってきた。また、暁峰祭やクラスマッチにおいてクラスや学年の団結を目指し生徒が自ら考え自主的に活動に取り組む積極的な姿勢を育むことができたと思う。班活動においても顧問のおかげでのびのびと熱心に取り組んでいた。</p>		○		<p>生徒会係とも連携して、生徒会活動の牽引役である現2学年生徒の活性化を図る。また、学習活動においては自宅等における勉強時間の確保がままならぬ生徒たちの底上げに努める。また、補習の充実にも取り組む。</p>
			<p>元気の挨拶を励行し、場を清めお互いを認め合う気持ちのいい生活環境を作り上げるとともに、適度な緊張感のある学習環境の構築に向けて指導することができたか。</p>	<p>1年生の時よりも廊下ですれ違ったりクラスや学年行事において、元気の声であいさつができる生徒の数が増えた。また、夏期休業中の黒姫高原における二泊三日の学習合宿や、オープンキャンパスの参加や大学の模擬授業においても節度と緊張感をもって前向きに取り組むことができた。また、英語検定受験者の数も多く前向きに取り組んでいる。</p>		○		<p>前向きにアグレッシブに物事に取り組む学年の雰囲気をもっと作り出していくためにもその基本である挨拶の励行や遅刻者ゼロの運動に努める。前向きな姿勢を作り出していく原動力に資格取得を据えたい。</p>
			<p>グローバルの精神を重んじ、お互いを尊重し思いやる気持ちを大切にし進路実現を目指す最終学年に向けて団結力の育成に努めることができたか。</p>	<p>台湾への修学旅行に先立つメールによる事前交流や旅行当日の学校交流、および旅行後のメール交換等を通して、多様な人間感情やものの見方、価値観や文化の違いを直接肌で実感し、お互いの立場を尊重し、社会の中で協力し合う姿勢を育むことができた。</p>	○			<p>台湾への修学旅行で高校生との学校交流が行われ、得るものがいろいろとあったが、今後の入試勉強と平行して、世界への視野を広げられるようなアプローチを大切にしたい。</p>
	3 学年	<p>集大成の学年の生徒として基本的な生活を大切に、各自の進路目標に向かい邁進し粘り強く取り組める学年集団となるよう指導する。</p>	<p>授業時間を守り、清掃を徹底し、ロッカーの上・黒板等を常にきれいに保ち、お互いが気持ちよく1日を過ごせるように指導できたか。</p>	<p>講座別の授業ではあったがそれぞれのHR教室の清掃によく取り組んでいた。多くの講座で生徒が自発的に黒板などをきれいにしている様子が見られる。ロッカーの上に私物はほとんど無く、概ねきれいにな状態であった。</p>		○		
			<p>各自の進路希望にそって、受身の姿勢ではなく、自ら考え自己を律して目標実現に向けて努力してゆく集団の雰囲気をつくれたか。</p>	<p>班活動、文化祭が終了してから本格的に学習に取り組む生徒が増えた。夏季休業中の2泊3日の学習合宿には151名の生徒が参加し、級友たちが真剣に学習に取り組む姿に良い刺激を受け、充実した時間を過ごすことができた。A特編授業も最後まで真剣に取り組むことができた。</p>		○		
			<p>最高学年として、班活動・生徒会活動に責任と情熱をもって取り組み、その後、学習中心の生活への切りかえを図り、最後まで頑張り抜く集団となるよう指導できたか。</p>	<p>班活動、生徒会活動は最後までよく取り組んできた。班活動の引退から学習への切りかえも概ねうまく進み、夏休み初めに実施した北志賀高原での学習合宿にも151名が参加した。夏休み以降は、朝早く登校して学習する生徒や、放課遅くまで残って学習に取り組む生徒の数が増えた。259名の生徒がセンター試験を受験した。</p>	○			

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
学校運営	教務	生徒が意欲的に学習、クラブ・生徒会活動に取り組むことができるような学校運営を行う。	年間行事予定に定められた諸行事を、学年・教科・係・委員会が連携を密にして取り組めるように、立案・計画・運営ができたか。	概ね順調に立案・計画・運営を行うことができた。行事の反省用紙を作成配布しているが、提出数が寂しい。	○			来年度の年間行事作成に当たって、行事や曜日について、担当部署と連絡を取り合い、細心の注意を払って計画したい。教科会や学年会でも反省の集約をお願いする。
			教務関係の文書及びシステムを整理し、校内の諸活動の円滑な運営に資することができたか。	教務室・教務室前の掲示板及び印刷室の整頓を行い、業務がスムーズに行えるようにした。定期考査における特別室受験の利用は1学年2名、2学年23名、3学年15名（延べ人数、3学期実力テストまでの6回）。保健室業務との分担が浸透してきた。		○		引き続き、円滑な運営となるよう工夫を重ねる。特別室受験を継続し、生徒の受験環境を整えたい。
		広報活動に力を入れ、体験入学の充実を図る。	学校案内パンフレットならびに公式ホームページの工夫・充実をはかり、本校を志願する中学生が本校についてよりよく理解できるような情報提供ができたか。	公式ホームページでは、1月末までに100回を超える更新を行い、積極的に情報発信に努めた。始業式や終業式の校長講話も掲載した。	○			引き続きホームページの定期的な更新を継続する
			中学生が本校への進学意欲をかきたてられるような魅力的な体験入学を、学校全体で計画し、実施することができたか。	体験入学は今回も800名を越える参加者があったが、生徒会執行部の献身的な協力も有り、概ね順調に実施できた。暑い体育館での全体説明会は大変であった。教務室前の掲示板を整理し、学年通信や新聞記事等の掲示を行い、来校者に校内の活動状況がわかるように工夫した。		○		スタッフの配置・暑さ対策等について検討し、円滑な運営を考えていきたい。
	PTA	学校の活動を支援し、保護者と学校あるいは保護者同士をつなぐネットワークとなる。	PTAの諸行事により多くの保護者・職員の出席が得られ、充実した内容で相互理解を図ることができたか。	各学年のPTA懇談会、環境整備作業は例年並みの参加者であった。それぞれ有意義な時間を過ごせた。環境整備作業については、少々課題を感じた。		○		環境整備事業について内容を精選すべきとの声があった。班室清掃は代替わりの時、先代のものを完全に処分する指導をするような手立てが必要であろう。
			今年度、日程が変更となるPTA総会関連の行事が効果的に実施できたか。	ここ2～3年、毎年PTA総会の時期、日程等を変更しつつ、試行錯誤をおこなってきたが、本年度のものが、運営側も参加者する側も、最も自然ではないかと思われる。総会等参加者341名（昨年より34増）。		○		次年度は年暦の変更が予想されるが、それを考慮しながらも、なるべく今年度の形式を踏襲していきたい。
	「開かれた学校づくり」推進	「開かれた学校づくり」を研究・推進し、学校をより活性化する。	公開授業・教育実習等の機会を捉え、魅力のある授業を行うための校内研究をこれまで以上に充実させ、教員の資質向上を図ることができたか。	3回の公開授業・中学生の体験入学や教育実習の機会ごとに校内研修の機会を設定した。1学年の探究学習でも公開授業や研究発表の一般公開を行った。ICT指導員による定期的なアドバイスも取り入れてきた。今後も教科・学年内の研究機会のさらなる充実を呼びかけたい。		○		学習指導員会、探究係と連携しながら引き続き充実を図る。
			各種アンケート調査とその分析や学校自己評価表作成と中間評価及び総括を通して、よりよい学校づくりに資することができたか。	アンケート調査は11月に実施。保護者より632名（昨年570名）回収率75.7%（昨年68%）、生徒より626名（昨年570名）回収率75%（昨年68%）であった。職員会等で結果を共有した。			○	アンケート後に集計、総括を行った。分掌・学年・教科・班活動等での今後の計画立案に生かしたい。
			公開授業の実施や広報誌の発行をとおして、本校の教育活動を理解してもらえるような工夫ができたか。	第1回公開授業392名（昨年度は136名）、第2回公開授業301名（昨年度490名）、第3回公開授業200名（昨年度114名）の参加。生徒会執行部の協力も頂いた。第1回公開授業を保護者対象から、一般公開とした。昨年同様に秋の授業公開週間中に、長野市中学校の研修日にあわせて2回の学校説明会を設定した。			○	第1回公開授業、第2回公開授業ともに来年度も同様の取り組みを行う。第3回公開授業は3日間開催として、授業後に学校説明会を実施したい。